

四月決戦期

15日実力行使を斗いぬこつ！

26日(安保衆院通過予定最終日)の実力行使を斗いぬけ！

20日以降の大衆的団体抗議皮状テモを成功させ
安保と岸をブツトバセ!! — 岸プロ主催討議集会に参り —

1960.4.11

すべては四月の斗いにかかる

てしる。

安保改定を許すが許さぬか、一大詰めの四月に入った。「階級斗争の天王山」(日経連の発言)というこの斗いを斗いつづけて、すでに一年になる。いまわれわれはその最終局面を迎えたのだ。資本家と岸政府は、安保改定をやりぬくために、面透きで、何が何でも「強行する」決意をみせている。

《安保改定と資本家・政府の計画》

南日の井伊藤階級は、この四月斗争をもかえて特に重要な任務を負っている。11・21～1・16の安保斗争の中で果たしたは裏切られた。それは、大きな意味がある。それは、安保→合理化→自由化の中等、全体的傾向として現われている労働運動、左翼勢力の右傾化とともに、更には日本資本主義の世界市場の競争への参加とりく意図からみても無視できない。大阪、京都地評などにみられた左翼的な方針は、安保改定をめぐっての独自の傾勢の分析にええられてきた。

①從来の田共によつて、とくにゆがまされてきた民族主義的なつかみ方に対抗して、日本の朝日資本が成長して自立するようになつたと把握したことである。その意味では、田共の土岐、強の小野義成裁判が、從属説の輕視をひとつつあげていたところで、既は、積極的に獨占資本を譲調したところでの点にまで、対立を深めすぎを銀ながつた。

②それは、当面の争奪斗争を、日本独占資本との

階級斗争のなかから切りひきこうとする主張と、国をうえ、國のために、岩井、石橋会談などといつた方向との対立を生みだしてきた。

③このようね安保斗争とその政治的經濟的背景をめぐつて、大きな対立とを持ちながら、そしてそれが、全国的に東西左翼勢力をつくりながら、なじまぬか」という正しい敵の向腹裏起にもかかわらずどうされたための哪方の立の介考、II 左翼政党と左翼

共産主義者同盟関西地方常任委員会

(原稿先は左側に、京都大阪神戸東京にあり)

④それは労働運動の右傾化を生みだしている資本主義の動向を、青島輪郭の分析から、日本資本主義分析によるで探めねばならない。世界帝国主義諸國の市場競争への突入のための、合理化と低賃金政策が単にその指標から、労働者階級そのものの階級意識をも躍らせる巧妙さですんでいる事実である。少なくとも一部労働資本を作りだす力と、反動权力と結びついた労働運動の右傾化の理解が、自由化にともなう経済循環、II 利益分配と結びつけられなければならぬ。

⑤しかし以上のような期待を、日本資本家は労働にかけたが、それはこの面倒にどのようにあるわれているか? 一方からの企業別組合による安定資金の構造と、他方からの合理化の推進、三井三池に一つの焦点を形成した。

《労働運動内部からの切り崩し》

強くなつた資本を背景に、労働貴族→主導が代役をしており、民社が誕生した。彼等は、資本家政府と一緒にになって「労使協調」を白言葉にする。「相手をケルソ・フル」とかどかしをかけながら政治斗争をやめさせ、經濟要求も労働の道をさし示している。内部からの攻撃に歎をとられ、これをナタメるような姿勢では、全体として労働者が斗つていいくことは出来ない。三井三池は敗北している。斗う趙二二のだ。然内省は「競一と回結」で勝てないのだ。

(以下うちへつづく)

・平井書記局

・京都府千代田区神保町二・四

・大阪地方委

・神戸地方委

・大坂地方委

・京都府千代田区神保町二・四

・前都地方委

・京都府左京区古田

・水戸二郎

・福井二郎

・京都府西京区西京区

三月十九日一編合

國會下院で斗う

衆議院大會がさうであれ、三月十九日は最後まで三元を支撐するには、もとより資金カンパや衆議院の決意を示している。

三元を支撐するには、もとより資金カンパや衆議院本に對して勝利して立派に立派であることはあつた。

衆議院に對して勝利して立派であることはあつた。

衆議院の實力斗争で支撐しようではないか。

5月から26日の高原斗争が正し、戰術が

聞く所によると衆議院は5月26日の午後を5月27日

ヒ期間ものばし、高原斗争として計りといつて、

なるほど、聞えはるい。

しかしあくまでみると、「高原斗争」ということは、5月の斗争を全力をあげてやりぬくがまえをく

ずすことになりはしないか。

最後まで計り三月九日・七〇〇〇日費上げをいます

てある全額通じ、三〇〇〇日費までオク全額、現

には民間諸団体は5月26日に最強の斗争をくわ

くとしているではないか。

このうちの、どちらの斗争をあわせ、全体と

して資本家と共に一施くらわせるためには、5月27

日、どこででいてきだめだ。

そして又、5月を全力あげておうちからこや次の

エヌレギーをふり強く生きてくるのだし、5月の

真のゼネスを実現しきるのだ。

5月19日と26日のゼネストを

ナシ

大詰を迎えた、特に20—26日の間、国会に波状的に抗議デモを組織し、国会審議を混沌させ、ストップさせることは、きわめて適切な行動である。

あの5月19日の信方という国会予算が、政府、資本家をびっくりさせ、我々も頭痛だけ、安保斗争に一々の転覆を免ったことは結構に庄やしい。

あの時必要だったのは、直ちに、次の攻撃の準備をやることだった。

「今度は庄連続ややろう」「庄連続での実力行使がないのでは、かやではねめがつてはならない」という意見が出ていた。一言ばくしてはキレイだ。

しかし、庄連続の行動と街頭デモとを並行に行なうべきではない。問題は、われわれ労働者のもつてゐる工具とヤーを買入限にひき出し、敵のアテンを殴らこわし、そしてこの中で資本家階級の攻撃を防ぐことである。そこでこの中で資本家階級の攻撃を防ぐことである。

戦勝、支那をもつてこつこと、そのためには、今何をしたかといふのかどうことだ。
被験西郷連続26日のセネストを前に準備しようではないか。一そのためにも5月の全力斗争が必要だ。とともに、東京国会予モ代表團を派遣しよう。
国会予モ代表は、もうあつても審議をぶつぶすときで国会に大義的抗議行動をひこすのも。
この行動をめぐる、5月、もとよりも斗うめとして、歴史的時期にせ、5月、もとよりも斗うめのだ。いるかまえがあつてこぞ、且つ手口が確くあるのむ。

平田アヒルの舞踏をする

こんな日、一日をくりかえしでははうむ。

いきごろ「お」も個人として、行くことに反対でなか

ったんだ。ビビー、といふ政黨員がいる。衆議院へ行

て全勝逃、一部の労働者諸君をつた。何故か、一つに日本食事の統一をまもるためにやめたの

のが、三元の教訓も、衆議院は統一と田舎では斗

争は解説しないことを示しているではない。

と、いふ。しかし「競争」とは「内」の中での競争ではない。

この競争も、衆議院は統一と田舎では斗

争は解説しないことを示しているではない。

と、いふ。しかし「競争」とは「内」の中での競争ではない。

その結果、二つの競争も、衆議院は統一と田舎では斗

争は解説しないことを示しているではない。